

支倉常長フェロー報告書

提出日 2012 年 9 月 28 日



申請者	氏名	神林 由美
	所属・職	皮膚科学分野・大学院生
出張期間	2012年 9月 17日 ~ 9月 23日	
渡航先	Venice・Italy	
渡航目的	学会参加・共同研究のための留学・( )	
発表演題名あるいは共同研究課題名	Comparison of immunosuppressive cells and imuunomoduratoly cells in keratoacanthoma and cutaneous squamous cell carcinoma.	
得られた成果など		<p>ベネチアで開催された 42<sup>nd</sup> Annual European Society for Dermatology and Research Meeting に参加し、ポスター発表を行った。</p> <p>発表内容は、皮膚の有棘細胞癌と、それと臨床的に鑑別が困難で自然消退も認める良性腫瘍であるケラトアカントーマの生物学的相違を検証するため、免疫組織化学染色を用いて腫瘍周囲に浸潤する細胞の特徴について比較検討したもので、有棘細胞癌では免疫抑制型細胞 (Treg, M2 mφ) が統計学的有意差をもって多く浸潤していたのに対し、ケラトアカントーマでは STAT1 を介して IFN-γ を産生し Th1 細胞への分化を促進するといわれる IL-27 産生細胞や STAT1 (pSTAT1) 陽性細胞が統計学的有意差をもって多く浸潤していたことから、浸潤細胞の相違が生物学的相違を決定づける一因であり、浸潤細胞の検索が診断や治療法の選択に有用であると報告した。今回、ハイデルベルク大学免疫学分野の K.Mahnke 教授らにプレゼンテーションするという貴重な機会に恵まれ、共同研究に関する提案も含め、多くの先生方から助言を頂いた。</p> <p>本学会は、皮膚科学の研究分野において大変歴史ある学会で、私の研究課題である皮膚腫瘍免疫に関する講演やポスターも多く、最新の知見を得ることができた。この経験を、今後の研究に生かせるよう努力していきたい。</p>
		

- ※ 帰国後 10 日以内に報告書を提出してください。HP に掲載することがあります。
- ※ 可能であれば顔写真、学会風景写真を添付してください。
- ※ 用紙が不足する場合は、適宜加えてください。